

社団法人全国高等学校PTA連合会 株式会社リクルート「キャリアガイダンス」合同調査
第3回「高校生と保護者の進路に関する意識調査」(2007)

調査結果サマリー

■「進路を考える時に不安になる」「将来働くことについて気がかりがある」という 高校生が前回に引き続き増加

進路を考える時にどんな気持ちになるかを高校生に聞くと、「自分の可能性が広がるようで楽しい」という回答は24%、「自分がどうなってしまうのか不安になる」が49%で最も多かった。過去2回の調査の推移を見ると、2回連続で「楽しい」が減少、「不安」は増加している(p.21)。また、高校生に対する「将来働くことについて気がかりなことがあるか」という質問では、「気がかりがある」という回答が74%で、やはり前回に引き続き増加しており、働くことへの不安も増していると言えそうだ。(詳細:報告書p.23)

■「学力不足」が進路選択に関する最大の気がかり

進路選択に関する気がかりの内容について高校生に質問したところ、最も多かったのは「学力が足りないかもしれない」で58%が回答。「自分に合っているものがわからない」「やりたいことが見つからない、わからない」など、自分の適性や目標が見えないことへの不安も多い。(詳細:p.22)

■「子どもの頃から保護者にほめられてきた」高校生は48%、 「子どもをほめてきた」保護者は75%。両者の認識に大きなギャップ

高校生が幼少の頃から家庭教育がどのように行われてきたのかを、共通の7項目で親子にたずねたところ、ほとんどの項目において親子間の数字に開きがあり、認識のギャップが見られた。最も著しいのは「ほめる」に関する項目で、「子どもの頃から保護者にほめられてきた」という高校生が48%なのに対して、「子どもをほめてきた」という保護者は75%だった。(詳細:p.33)

■家庭内キャリア教育がなされてきた高校生ほど「進路を考える時楽しい」

「就きたい職業がある」「未来社会は好ましい」などの回答率が高い

家庭における幼少時からのしつけや目標を持たせる言葉がけなどを『家庭内キャリア教育』と称し、その度合い別に、高校生に対するさまざまな設問の回答状況を見た。すると、家庭内キャリア教育度が高い層ほど、進路を考える時の気持ちは「楽しい」、将来就きたい職業の有無は「ある」、未来社会については「好ましい」など、前向きな選択肢の回答率が高かった。(詳細:p.34~36)

■保護者の53%が「子どものために学校調べをしたことがある」

保護者が高校生の進路選択行動にどのように関わっているかをたずねたところ、「子どもに合う分野をアドバイスしたことがある」との回答は74%、「子どもに合う学校にはどんな学校があるか調べたことがある」は53%、「興味を持った学校の見学に行ったことがある」は29%など、保護者が活発に行動していることがわかった(詳細:p.39)。

※この調査結果については、キャリア教育専門誌「キャリアガイダンス」No.20(リクルート)にも掲載しています。

※出版・印刷物等へデータ転載する際には、“(社)全国高等学校PTA連合会・(株)リクルート調べ”と明記していただきますようお願い申し上げます。

▼本調査に関するお問い合わせは、下記までお願いします▼
(株)リクルート キャリアガイダンス編集室
TEL:03-6835-4068/e-mail:career@r.recruit.co.jp